

窓

— 同窓会だより —

No. 92 (平成 23. 8. 13発行)

富山県立魚津高等学校同窓会



七月十八日早朝、「なでしこジャパン」のW杯での快挙で、日本中大騒ぎ、日本に勇気と感動を与えてくれた素晴らしい試合に、東日本震災の被災地の皆様も沸き上がっており、団体スポーツの見事なチームワークと、勝負に対する執念を見せつけられました。本当におめでとう！

午後、県営球場へ、母校の夏の甲子園富山大会の応援に行き、富山中部高校に十一対一の五回コールドゲームでまずは二回戦突破。甲子園を目指す球児達の姿に好感を感じて来ました。

私にとって魚高での三年間は、野球一筋に明け暮れていた様な気がします。五十十年前の思い出に筆を取っております。

あこがれの魚高野球部に入部し、一年生の時、夏の甲子園大会に初出場。初戦強豪浪商戦に、一・二年生の補欠十二・三人が夜行列車で甲子園に行き、試合後その日の夜行で魚津に帰る予定で切符を頂き、応援に行きました。大半の予想を覆し、村椿投手の好投で快勝しました。私達はどのようなかと思っておりましたが、後援会長が泊まっている旅館に泊まることになり、着の身着のままの部員全員に、着替え、洗面用具等一式が支給されました。



夢の甲子園出場

副会長 鶴見 瑞夫

その後二回戦明治高校、三回戦桐生高校と連破し、ベスト8に進出し、今でも高校球史に残る、板東投手の徳島商業高校との延長十八回0対0の試合です。途中からナイターになり、初めてみるナイター照明での試合をスタンドから応援しながら、素晴らしいグラウンドに見とれていました。

翌日の再試合では敗れましたが、選手の皆様はさわやかな顔をしておりました。その日の内に、私達補欠の

ることが出来ましたが、まだ正選手にはおよばず、練習の明け暮れでした。

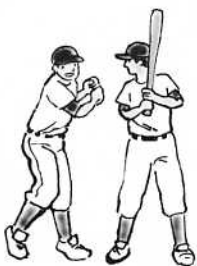
しかし、二年生の夏の大会初戦宿敵滑川高校戦のオーダー発表で、宮武監督より「一番レフト貫名、二番サード鶴見」と言われた時、一瞬夢かと思いました。初めての公式戦のスタメンのチャンスは絶対に生かすぞと試合に臨み、第一打席でライト線に二塁打を打ってこの大会の全試合に出場し、打率五割以上の成績を残して、晴れの二年連続甲子園出場の一役を担うことが出来ました。

甲子園で平安高校に三対一で負けましたが、夢の甲子園の土を踏み、ヒット一本を打ち、最高の思い出でした。三年連続出場は出来ませんでした。自分が頑張ったチャンスを物に出来たことに大きな自信を得ました。又あの甲子園で、魚津高校の野球部を応援出来ればと願っております。

(株式会社太陽スポーツ
代表取締役会長 魚高十三回卒)

部員はチームの道具を全部持ち、大阪で夜行列車に乗るために並んでいた時、魚津の選手は今日負けたくらすぐ帰るのかと、「来年又来いよ」と声を掛けられ、三年生までには自分も選手として甲子園の土を踏むことを心に誓った様に思います。

試合一日の応援予定が、十日余り大阪に滞在し、高校野球の素晴らしさを改めて感じ、それからは学校での練習はもとより、家に帰っても素振り、朝起きて約五キロのランニング等に頑張り、秋の大会には背番号12を頂き、三塁手の補欠で大会に出



転機 谷井建三



高校時代は、社会・国語・数学・全てにおいて最悪の成績でしたが、現在、特に社会(日本史)が、私の仕事のライフワークとしては、一番重要な位置にあります。なんと、皮肉な事か？私は知らないうちに歴史画というジャンルを描いており、若い時は、まさか、この世界でこの様な仕事に携わるとは、想いも依りませんでした。

高校時代に学力が高く成績が良い人、運動能力が高い人、全て羨ましく、憧れたものです。東京に出てきた時、廻りの全ての人々が、優れた知識人に見えて、失意のどん底に追い込まれたものです。今、想起起こすと大学を卒業して無夢病者のようにフラフラと四年間が過ぎ、当時、ある一人の日本の船の研究者の先生に会い、その先生は、私に日本の船の歴史の話を詳しく、解り易く、説いて下さいました。私はその時想いました。私のような者になぜクドクドと真剣に教えようとするのだろう？早く船の仕事を終えて逃げ出したいと思つたこともありました。しかし、その仕事の監修を終えた後、この先生に二度と逢えないと思うと急に淋しくなりました。これが、私の人生の“転機”だったのかも知れません。現在、七十四才、やっと、自分の描きたい仕事に光が見えて来たようです。

た時、諸先生方と打ち上げでお酒を酌み交わしながら、自慢話を聞くことが楽しみで、先生方の話は難しいものが多く、今だに理解出来ない難しい話が多々あります。ある日、ある先生が「解いたり、見つけたりするのが面白いのだよ」と言われました。

創作する物(絵画・音楽など)に関して、学問と共通に値するものがあつて、完成した物よりも完成するまでのプロセスが重要なのだと、共通の事を云っていたアーティスト(画家)もいました。学生時代にこの感性があれば、少しは私の人生は変わっていたかもしれないと想う今日この頃です。(イラストレーター 魚高八回卒)

自分が見ている世界



永井 俊太郎

大学に通つたよになつてからというものの通学などのために電車に乗る時間が増え、供として本を持つようになつた。一度読んだ本を読み返すことはあまりしないのだが、あることがきっかけで宮本武蔵の「五輪書」(大河内昭爾・訳)を読み返すことがあつた。

学生するとき、友人たちに誘われて演劇を見に行つたことがある。小学校の頃を最後に演劇鑑賞とは無縁で、見もしないのに苦手意識を持つていた。嫌々見に行つたはずだったが、人間が身ひとつで、無から有をつくる姿に惹かれ、今では数十回と見に行くようになってしまった。周りからは呆れられており、都合よく勉

強だと言つて誤魔化している。この経験から気付かされたことは、自分の価値観の狭さであつた。

「五輪書」には、生きていく上で濁りのない広い心で大局的にものを考えることが肝要であり、知識も精神も、ひたすら磨くことが大切であると書かれている。知識を深め、天下の正、不正を弁え、物事の善悪を知り、様々な芸能の道を体験し、世間の人に少しも騙されないようになつてのち、初めて正しい判断ができるようになるのである。

人は自分の知つている範囲内だけでしか物事を判断できない。知らないことまで判断が及ばないのは当然である。今、自分に見えている世界はあくまでも自分の価値観で見えている世界なのだ。その世界を広げるために、いくつになつても様々なものに触れ、肌で感じ、自己に目を向け、自分の心を磨いていく必要があるのだと思う。それは他を理解し、他を尊重する心を育む上でも大切なことであると、この本から教わつた。これを日々実践していくことはなかなか難しい。しかし、他の人生に関わることなく、社会を生きていくことはできない。他に対しての責任があるからこそ、自分の中で乱れることなく片寄ることのない流動自在な心を養い、真実を見極める判断力を求めていきたいと思う。

見る気もあまりなかった演劇が私の世界に変化を与えてくれたことに、そして無理矢理誘つてくれた友人たちに感謝したい。あのときがなければ、このような思いには至らなかつたかもしれないのだから。

(魚高五十一回卒)

岡山魚高会

大井金 吾

平成二十二年十一月十四日(日)に、第五回岡山魚高会を倉敷国際ホテルに於て開催し、魚中二十年卒、魚女二十二年卒から魚高五十七年卒までの十九名が出席して盛会の中で時を過ごしました。

会は、細川、油本、中塚三氏の司会により開会し、高三秀成氏より「会員皆のスピーチが楽しみで、この雰囲気にはいつもホツとする」の言葉を添えた「始めの挨拶」で懇親会は進行しました。

途中、山澤哲三氏より「創立10周年記念式典・出席報告」として、「質実剛健風を成す」の魚津中学から「紅はわが心」の魚津高校に至る歩みと母校の現状、記念式典等詳細な報告がなされ、又、細川勝則氏からは、「魚高ラグビー部OB会・結成報告」と題して、OB会結成の経緯や現役ラグビー部への支援等の報告がなされました。

会は、杯も程良く回り、全員の「一分間スピーチ」に笑いと拍手、歓談の輪が広まる中、恒例の魚中・魚高校歌と応援歌の大合唱が始まり、交流に歓を尽くし会員の親睦を更に深めました。

最後に、平沢博氏の閉会挨拶で二年後の再開を約束し、古川富夫氏の万歳三唱で閉会となり、魚津から直送の鮭寿司が全員に配られて散会しました。

(魚高九回卒)



あのひと言が、いま

米田 哲



「七〇〇gのお子さん、元気にいらつしやいますよ。おめでとぅございます」

一〇〇〇g未満の超低出生体重児も、高度医療の発展に伴い助かる時代。とはいえずすべての赤ちゃんが正常に発達していけるわけではない。

いろいろな形でこの分野に貢献したい。そう思う私の職は、なにかと話題の多い産婦人科医。富山大学に所属している。妻も同じ。ハイリスク妊娠を管理することが多く、悩みはつきることもない。

高校時代は産婦人科医を目指していたわけでもなく、むしろ医師という職にさえ興味もなかった高校二年の秋、「哲は、医師にむいていると思うけどな」と水井先生は言った。

高校生にもなるとずいぶん大人になった気もしたが、四十をむかえる今から思えばずいぶん若い。自分の適性、能力など見据え、進学、就職しなければならぬとは酷な話である。

ふと、あのひと言を思い出すときがある。忙しいけれど、充実した今があるのは、まさに魚津高校でお世話になったお陰なのだろう。感謝の気持ちをなにかしら母校にお返ししていければいいなと素直に思う。



夢はかなった？

下澤 かず子

高校を卒業したあの頃の将来の夢（というか目標）を思い返してみました。

「薬剤師になって病院で働く」↓地元で大学に進学、運良く地元で病院の募集があり採用となりました。それから十七年：調剤室に引きこもり状態でしたが、入院患者様への服薬指導で患者様はもうろん、医師や看護師らと接する機会も増えました。薬学部が六年制になった

た今、医師へ薬の提案をすることも大事な仕事になってきています。その為にも、日々の勉強は必要なのですから：できる限りで頑張っています。

あとひとつ「子どもを産む」↓なんとか三年前に理解ある旦那様と結婚でき、翌年には元気な男の子を授かることができました。現在一歳十ヶ月、たくましく育っております。



大好きなディズニーではありませんが、想い続ければ夢はかなうものですね。

あれから21年
こんな毎日です
(魚高42回生より)

び、自分の夢を実現することができたと、本当に感謝しています。そして、何かの縁なのでしょうが：教員になってからの約十七年間、ずっと魚津で働いています。これまで、子供たちと一緒に、蝶六やたてもんなどの伝統文化、水産業の特長、米作りの歴史など、魚津について様々なことを学んできました。また、どの校区の方々も地域を愛し、子供たちを温かく見守ってくださっています。このように、教員になってから、高校の時には気付かなかった魚津のよさを再発見する毎日です。これからも、大好きな魚津で、子供たち、そして地域の方々との出会いを大切に過ごしていきたいと思えます。

挑戦してますか？

桶屋 勝 幸



実行委員長を務めさせて頂いた二十数年前の魚高祭で「不可能を可能にするとき、我々は輝いている」と申しました。

開催にあたり、挑戦的な出し物がそれ相応にありました。気球を飛ばす／後夜祭／巨大看板などです。一見不可能な目標に対して真摯に取り組み、最終的には形にする。そのような場面に立ち会い感じたのが、「輝いている」でした。そのプロセスにおいて、目標の共有化が行われ、各々が各自の強みを発揮して、一人では到底達成不能なことを連携して成し遂げる。例えば立て看板は、その大きさ

ゆえに屋外での作成でしたが、あたりが暗くなり看板が見えにくくなると、放送部の協力で照明を用意してくれました。時折当時のことが脳裏に浮かぶことがあります。そんなときは懐かしく感じるとともに自問します。「挑戦し続けているか？」と。

平平凡凡な日々もまたよろし

吉田 健 一



息子と畑に種まき作業

「卒業してから、もう何年度目の春」というドリカムの「未来予想図II」という歌があります。今年四十歳になる私は、何年度目の春を迎えたのか分からなくなっています。高校卒業後、地元で大学に進学し、地元の役所に就職し、富山市から嫁さんをお願い、二児を儲け：とまあ、絵に描いたような平凡な人生を歩んでおります。高校在学中もそんなに地元を離れたという思いは強くはなかったのですけれど、まあ、ふるさとでハイハイボンボンとして生きるのも悪くはありません。

在学中の若かりし頃に描いていた「未来予想図」とは大きく異なった人生だったかもしれませんが、平平凡凡の中にも予想外の出来事が多々あり、ささやかな幸せを感じながら生きていくのもまた楽しいもんです。ああ、高校時代にあこがれだったあの人はどんな四十歳になっっているのかにやっ？と感じる今日この頃…。

魚津で、子供たちと共に

石倉 博 美

私は今、魚津の小学校で教員をしています。教員は、私が小学校の時から将来の夢としていた職業でした。高校の時に、個性あふれる先生方から多くのことを学

学校便り



桜の下で校歌指導 (4/15)



1年生遠足 (ソーセージを作る 4/28)



イリーナ・メジューエフさん
ピアノ出前リサイタル (音楽室にて 4/28)



フリーマーケット (5/21)

東日本大震災の義援金を集めようと、生徒会が中心となってPTA総会の日にフリーマーケットを行いました。



高校総体男子ソフトテニス部
団体戦 準優勝
個人戦 ベスト16 (6/5)



高校総体男子バスケットボール
準優勝 (6/5)

北信越大会出場

男子バスケットボール部・柔道部
陸上競技部・男子ソフトテニス部



全国大会出場

応援部 (チアリーディング)
放送部・ダンス同好会
寺田弥生さん(3年)



「リジョン・ユース・フォーラム in 奈良」参加



家庭部 出前茶会 (新川ハイツにて 3/22)

7月28日、第58回NHK杯全国高校放送コンテストがNHKホールで行われ、朗読部門で出場した新田俊太郎さん(3年)が準優勝に輝きました。同じく朗読部門に出場した舘川千晶さん(3年)は準優勝に次ぐ優秀賞でした。

富山県立魚津高等学校同窓会 同窓会ホームページ
〒937-0041 富山県魚津市吉島945番地 <http://www.nice-tv.jp/~gyokou/index.html>
TEL (0765) 22-0221 魚津高校ホームページ
FAX (0765) 22-9970 <http://www.uozu-h.tym.ed.jp/>

原稿募集のお願い

本校同窓生で「こんな方を知っている」「こんな方が活躍している」という方はいませんか? 自薦・他薦は問いません。原稿をお寄せ下さる方募集しています。